

「エコ」で

会社の活性化を！

「環境マネジメントシステム制度」に挑戦しませんか？

もうすでに多くの企業がご存知の「環境マネジメントシステム制度」。もともとも有名なISO14000シリーズから、身近な「環境にやさしい優良企業認定制度」まで、その概要・特徴をご紹介します。



「エコ対策」は「会社」を強くする

「環境マネジメントシステム制度？とくにやってみよう」とおっしゃる会員企業の皆様も多いことと思います。環境に対する企業の関心や取り組みが、それだけ一般化している証拠と言えるかもしれません。とはいえ、逆に「環境？ そんなことを考える余裕は無いよ。不況対策で精いっぱいだから」とおっしゃる企業も、まだまだ多いと思います。

前号の特集で「エコはビジネスチャンスになる」とご紹介しましたが、今回は「エコ対策は会社を強くする」をキーワードに、各制度の概要をご紹介します。次頁の表はさまざまな制度の概要を簡単にまとめたものです。これを見ていただければ、大体のことはつかめると思いますが、少しだけ補足します。

難易度については、一概には言えませんが、一般論としては、左が高く右が低いと考えていいでしょう。つまりISOがもっとも難しく、環境にやさしい優良企業認定がいちばん容易に取得できると言えます。ですから逆に、まずは右から取得し、弾みをつけていくことも、いいと思います。

表に出てくる「PDCAサイクル」についてご存じない方もいらっしゃるかも知れません。PDCAとはプラン(Plan)、ドゥ(Do)、チェック(Check)、アクト(Act)のことです。計画して実行し、検証し、その結果から改善処置を行うというサイクルをあらわしたもので、

ではなく、取得後も定期的なチェックが求められていることをあらわしています。エコアクション21とECOうつつのみや21は、いずれもISO14001を簡易にした制度、というイメージです(実際には違いますが、大づかみにそう理解していただければいいでしょう)。ですから「申請企業が、現在だけでなく将来も、環境に配慮したビジネスマネジメントを持続できるかどうか」が問われます。大きく言えば「業務や組織だけでなく、企業文化として定着しているか」が問われるのです。

ですから、認定は無期限無条件ではなく、有効期間が設定され、更新のためにはまた審査手続きが必要とされています。それだけに、比較的難易度が低いと言われるECOうつつのみや21でも、3カ月くらいは社内で準備作業を行うことが不可欠です。宇都宮市内パージョンの認定制度だからといって、簡単に取得できるものではないのです。またそうでなくしては、取得する意味がありません。

ただし、対象が「100人未満の企業」ですので、決して必要以上に難しいものではありません。当所などに適宜ご相談いただければ、まず間違いなく取得できますので、ご安心ください。

環境にやさしい優良企業認定制度は、現在自社で行っている「環境への取り組み」を総括して申請するだけですから、



最初のアプローチ

環境にやさしい優良企業認定制度は、現在自社で行っている「環境への取り組み」を総括して申請するだけですから、

ので、一般には生産管理や品質管理の手法として知られています。

構築期間とは、取得に向けて動き出してから実際に認定申請を行うまでの期間です。これについては、企業によって条件がさまざまですので、あくまで目安と考えてください。また、準備期間に入る前に、制度の内容や簡単な自社分析なども行う必要があるでしょう。それを含めると、もう少し長くかかるかも知れません。



チャレンジしやすい制度から

2009年11月の時点で、栃木県内のISO14001認定事業所数は369事業所、エコアクション21は91事業所、事業所版環境ISOは27事業所、環境にやさしい優良企業認定証交付事業所は243事業所(うち特別表彰68事業所)となっています。ISOもエコアクションもそれなりに多数の事業所が取得していますが、全国からするとまだ決して多いわけではありません。ということは、逆に考えれば環境マネジメントシステム制度に挑戦することで、同業他社などから一歩抜きんでるチャンスでもあるのです。

また、環境にやさしい優良企業認定以外は、いずれもさきほど触れた「PDCAサイクル」が求められていることにも、ご注目ください。これはどういうことかと言えば、認定を一度取得して終わり、

特別な準備はあまりありません。ですから、最初はまずこの制度にアプローチしてみることをお勧めします。その作業を通じて、自社の「環境配慮度」がわかるでしょうから、それを踏まえて「ではどうするか」を考え、他の制度に挑戦すると良いでしょう。

他制度では、社内業務の徹底した洗い直しが、ほぼ不可欠です。とりわけISOやエコアクション21などは、実際に取得した企業の多くが「いや、大変な作業です」とおっしゃいます。

「現状を把握するだけでなく、今まであいまにやってきた部分も全部きちんと制度化し、書類(データ)として残さなくてはならないのですから、大きく言えば企業内事業仕分けであり、企業文化の再構築ですよ」と悲鳴に近い感想をおっしゃる方もいらっしゃいました。

ただ、それを行うことで、企業のせい肉が無くなり、強い集団に生まれ変わるきっかけづくりにもなっているようです。一般中小企業では、部門内でさえも業務分析を怠っていることが多いでしょうから、「環境」というキーワードからあつても、企業業務全体を見直す意義は、決して小さくありません。

もしまだ環境への取り組みを始めていないのであれば、今がチャンスです。4月・5月の年度スタートに合わせて、ぜひ検討してみてください。



問合せ 地域振興部
☎6377・3131

各種環境マネジメントシステム制度の特徴

制度名	ISO14001	エコアクション21	事業所版環境ISO認定制度 (ECOうつつのみや21)	環境にやさしい 優良企業認定制度
制度概要	国際規格 環境マネジメントシステム (PDCAサイクル)	国内規格 簡易環境マネジメントシステム (PDCAサイクル)	市内規格 簡易環境マネジメントシステム (PDCAサイクル)	環境活動認定制度 (環境対策評価項目票提出 ・実施(D)のみ)
創設主体	国際標準化機構(ISO)	環境省 EA21地域事務局とちぎ (17.4.1)	宇都宮商工会議所 宇都宮市	宇都宮商工会議所
創設年	平成8年(1996年)	平成16年(2004年)本格実施 (1996年環境省が策定)	平成17年8月(2005年)	平成14年11月(2002年)
対象	全ての事業者	特に中小業者	宇都宮市内の 主に100名未満の事業者	宇都宮商工会議所の全会員
費用負担	600~1,000万円程度 (従業員100人程度)	30万円程度	原則1万円	なし
構築期間	1年以上	半年~1年程度	3カ月程度	3カ月程度
審査概要	審査登録制度 JAB(日本適合性認定協会)認定の 審査登録機関が審査	審査登録制度 ・EA21審査人が審査 ・地域事務局が判定の可否 ・中央事務局が認定・登録	審査登録制度 ・審査人が現地審査 ・事業所版環境ISO認定委員会 認定・登録	登録制度 ・環境にやさしい 優良企業認定委員会が 申請書類に基づき認定

(平成21年11月現在)